

## 「生きものと友達になるための図鑑」を創る

市原農太郎・山本楓・前田笙・岡田慶次郎・横山侑一郎・多田百百音・伊坂友里・木山七海  
(兵庫県立大学附属高等学校 自然科学部生物班)

### はじめに

電子ゲームやスマートフォンの普及により、子ども達が自然の中で生きものと遊ぶ体験は、ますます乏しくなっている。また、シカの被害などにより、ひょうごの生物多様性は急速に低下している。

このままでは、将来ひょうごの生物多様性を守る人材はいなくなってしまう。もっと子どもたちに、生きものに対する興味・関心をもってほしい。そこで私たちは、身近にいる生きもの名前や特徴を学べる「生きものと友達になるための図鑑」を創ることにした。

### 市販されている図鑑の問題点

- |                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| 種類が多すぎて、調べにくい。      | 調べ方がよくわからないので楽しくない。 |
| 言葉が難しすぎる。意味がわからない。  | 簡単な図鑑はのっていない植物がある。  |
| 難しい図鑑は、野外に携帯するには重い。 |                     |

### 解決方法

カード式の検索図鑑を

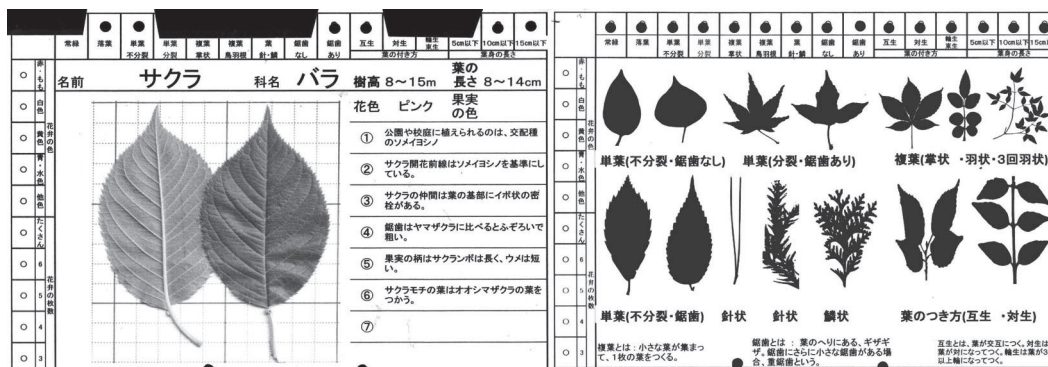


図1 「校庭の樹木図鑑」 検索カード(サクラ)

図2 「校庭の樹木図鑑」の「検索索引カード」

- ① はじめに覚えるべき、身近な場所でよく見かける生きものを各分野 20~30 種類を選択する。
- ② 「検索カード式」にすることで検索項目の順に関わらず、名前を調べることができる。
- ③ 「検索索引カード」をつくり、検索に必要な最低限の用語を図で示す。
- ④ 「エクセル」にデータを入力すれば、新たに「検索カード」を追加することができる。
- ⑤ 生きものは、環境によってみられる種類が決まっている。野外観察する時は、観察する環境に応じて出現が予想される種類を選んでカードを持ち出すことができる。

### その他の利点

- ① 新たに追加する種類や痛んだカードについては、児童・生徒・教員が「エクセル」で印刷して必要に応じて製作することができる。
- ② 白紙の「検索カード」を印刷し、写真の代わりにスケッチでカードをつくることもできる。
- ③ 新たな生きものとの出会いやカードを増やす楽しみがある。
- ④ 児童の発達段階や、利用方法・目的に応じて、検索項目などの変更が容易である。

### 問題点

- ① 「検索カード式」のために用紙はある程度の強度（厚み）が必要である。
- ② 穴をあけたり、不要な検索条件を切り取ったり、製作に手間がかかる。
- ③ 実際に、小学生に利用してもらい、用語などの改善が必要である。